

会 議 録

会議の名称	病院運営審議会		
開催日時	平成26年(2014年) 1月30日(木) 13時 30分～ 15時 30分		
開催場所	市立豊中病院 講堂(管理棟5階)	公開の可否	<input checked="" type="radio"/> 可・不可・一部不可
事務局	市立豊中病院 病院総務室	傍聴者数	2人
公開しなかった理由			
出席者	委員	高鳥毛敏雄(職務代理者)、天野陽子、金定繁次、津金 新、澤村昭彦、高森勝子、多田耕三、山口育子、渡邊太郎	
	事務局	管理者 小林栄、総長兼病院長 眞下節、副院長 北田昌之、 副院長 堂野恵三、副院長兼看護部長 高嶋香奈子、医務局長 東孝次 薬剤部長 栗谷良孝、事務局長 小城克未、事務局次長 小森憲昭 地域医療室長 坂萩誠二、医療安全管理室長 水摩明美 経営戦略室長 土田哲久、医事課長 森山幸雄、医療安全管理室主幹 大塚靖男 栄養管理部長 中井智明、病院総務室主幹 永富直彦 病院総務室主幹 守屋浩一、病院総務室主幹 鷺見一馬、医事課主幹 富島庸好、医療情報室主幹 久宿喜市	
	その他		
議題	(1) 平成25年度病院業務状況の報告について (2) 平成26年度事業計画(案)について (3) 診療報酬改定について (4) 意見交換 (5) その他		
審議等の概要 (主な発言要旨)	別紙のとおり		

病院運営審議会（審議等の概要）

●委員の出席状況と審議会成立の報告

全委員11人中9人出席、本審議会成立を報告

●傍聴希望申込みの許可

傍聴希望者2名の傍聴を許可

●議案審議

- 1 平成25年度病院業務状況の報告について
- 2 平成26年度事業計画（案）について
- 3 平成26年度診療報酬改定の基本方針（概要）
- 4 意見交換
- 5 その他

《審議結果》

1 平成25年度病院業務状況の報告、2 平成26年度事業計画(案)について事務局より資料に基づき報告

《質疑応答》

1、平成25年度病院業務状況について、どのような特徴があるのか。

→主な特徴としては、昨年度と比べ外来患者数の減少と入院の病床利用率が少し下がっている。これらの減少は、放射線治療の休止によるものと考えている。

2、高齢者医療外来患者数とレントゲン業務のうち放射線治療数の減少が著しいが、何か原因があるのか。

→機器の入替えにより平成25年7月から放射線治療を休止しており、それが主な原因と考えている。現在、更新機器の稼働に向けて調整中である。

3、機器の入替えにそれほどの期間必要なのか。

→機器の入替え後、検査を受けテストをするなど、準備にこれぐらいの期間は必要である。

4、平成26年度病院機能評価の受審に当たり、市立豊中病院ではどのように進めていくのか。

→平成11年から日本医療機能評価機構による認定を受けており、これまで3度認定を受けている。今回は、平成26年11月に再度認定更新を受ける予定にしている。そのため、平成25年9月に病院機能評価検討委員会設置し、各部署で取り組んでいる。これは、病院の質に関して第三者の評価を受けるもので、病院の質向上、患者サービスの向上につながり、当院にとって有益なものと考えている。

5、平成26年度の主な取組みの中に「新たな施設基準の取得」とあるが、具体的にどのような基準を取得する予定か。

→本年4月に診療報酬改定される内容を吟味し、当院で取得できる基準を積極的に取っていく予定。

6、事業計画（案）では、患者数や単価などにおいて平成25年度と平成26年度の数値がほぼ同じだが、平成25年度が減少傾向にある中、どのように原資を確保する予定なのか。

→平成25年度予算に関しては、放射線治療の休止を見越しての予算となっており、平成26年度は、治療の再開による収入増を計画の中で見込んでいる。また、平成25年度の収益の減については、医師の退職等も影響していると考えている。

7、累積欠損金の解消について、病院は収益で欠損金の解消に努めるべきではないかと考えるが。

→当院は平成24年度で198億円の欠損金があり、欠損金は赤字と誤解されがちだが、当院に関しては新病院建設時にかかった費用が立地上の問題で通常の2倍以上かかったものに対する減価償却による費用であり、患者さんからの収益ですべて解消すべきものとは考えていない。そのため、自己資本金で欠損金を解消した上で、さらなる経営努力をしていく。

8、資金剰余金が50億弱あるということだが、年度ごとの経営の中で機器の更新等イニシャルコストは剰余金の中から捻出する予定なのか、もしくは企業債等を利用する予定なのか。

→単年度で考えれば収支の均衡を図れると考えているが、機器の更新等については、企業債の活用と同時に剰余金も使って更新等行っている。企業債の償還については、繰出し基準に基づいて市から1/2繰出しているものと剰余金とで償還している。

⇒ 当初建設費用の減価償却にかかる費用と、単年度の収支は別のものとして説明がつくので、それが分かるような表記をすることで説明をすればよいと思う。

10、 市の財政状況によっては市からの繰出しも厳しくなると思うが、そういったことの不安がある。

→市からの繰出金については、国の基準に基づいて交付されている。不採算部門の運営など公的病院としての役割を果たすうえでも必要なものである。繰出金を受けずに病院運営を行うことは不採算部門を廃止することにつながり、地域医療にも影響が出ると考える。

⇒ 公的病院には、民間病院ではできないことを行っていくことが求められると思う。今後、繰出金が減少する可能性もあるので、引き続き経営努力を進めていただきたい。

11、 利用者の立場から見て、外来で、診察を受けてから検査、再度診察を受けるという流れについて、まず検査を受けてから診察を受けるなど合理化できる方法があるように思う。既存の運営方法を別の視点から見て検討する必要もあるのではないか。

→院内に患者サービス向上委員会、外来運営委員会など多くの委員会を設置しており、多職種が参加し病院運営に関するさまざまな内容を議論し、さらに運営会議で最終決定をするという体制を取っている。

→救急では、まず看護師が見て振り分けを行っている。日々の外来の中でも、総合案内に看護師を配置しており、受診科の相談などを受けている。

3 平成26年度診療報酬改定の基本方針（概要）について事務局より資料に基づき報告

〈質疑応答〉

12、 診療報酬改定はプラス0.1%といわれているが、消費税率がアップする中で結果としてマイナスになると思うが、市立豊中病院はこれをどのように見ているか。

るのか。

→消費税の影響で、2億円ほど費用負担の増が発生すると予測している。

1 3、 7対1看護の中で、在宅復帰率のアップが求められていると思うがどうか。

→次回の診療報酬改定では、在宅復帰率が条件に入ってくるが、率は未定。

1 4、 在院日数を減らすということは退院や転院の支援が必要だと思うが、市立豊中病院ではそれらの支援を行う体制になっているのか。

→当院では地域医療連携部がそのような業務を行っており、豊中市病院連絡協議会の中で地域の医療機関と連携を図りながら、患者さんがスムーズに移行できるよう努力している。次回の診療報酬改定では連携の強化も求められているので、引き続き努力していく。

1 5、 退院で在宅に戻す場合において、24時間対応や在宅支援診療所にこだわらず、近隣で診てくれる診療所に依頼をしてほしい。また、認知症の患者さんなども、公的病院の使命として積極的に受け入れてほしい。

4 意見交換

特になし

5 その他

特になし

次回運営審議会の開催は平成26年7月を予定。

<以上、終了>